

学位論文審査の概要

博士の専攻分野の名称 博士（医学） 氏名 長濱 賢

	主査	教授	生 駒 一 憲
審査担当者	副査	教授	玉 城 英 彦
	副査	教授	安 田 和 則
	副査	准教授	遠 山 晴 一
	副査	教授	三 浪 明 男

学位論文題名

**Does alendronate disturb the healing process of posterior lumbar interbody fusion?
-A prospective randomized trial -**

(アレンドロネートが腰椎後方椎体間固定の骨癒合過程に及ぼす影響)

本研究の目的は、アレンドロネート投与が腰椎後方椎体間固定に及ぼす影響に対し、前向き無作為試験にて調査し、その結果を報告することである。腰椎後方椎体間固定を施行した骨粗鬆症患者を、無作為にアレンドロネート投与群と、対照群とに振り分け評価した。画像的評価では、椎体間架橋の形成率、最終の骨癒合率、新規椎体骨折の発生率においてアレンドロネート群が良好な結果となり、臨床的評価でも、アレンドロネート群で良好な結果が示された。生物学的評価では、アレンドロネートが骨吸収、骨形成を共に抑制することが示された。これらの結果から、アレンドロネート内服によって、術後のより良好な架橋形成、骨癒合が獲得でき、新規椎体骨折の発生が抑制され、偽関節や新規椎体骨折が術後の臨床成績を下げる可能性が示唆された。生物学的評価では、アレンドロネートにより術後の移植骨リモデリングが阻害され、生物学的悪影響が生じた可能性が示された。よって、腰椎後方椎体間固定の骨癒合過程において、アレンドロネートによる生物学的悪影響が生じる可能性はあるが、生体力学的利点はその影響を上回ることに より、最終的に良好な術後成績が得られることが示された。審査にあたり主査、副査より研究に関する質問があり、申請者はこれらの質問に適切に回答した。

この論文はアレンドロネートが腰椎後方椎体間固定の骨癒合過程に及ぼす影響を、臨床における前向き無作為比較試験にて評価を行った非常に有用な研究であり、今後の骨粗鬆患者に対する脊椎固定術の治療ガイドラインの作成への応用、ならびに治療成績の向上が期待される。

審査員一同はこれらの成果を評価し、大学院過程における研鑽や取得単位なども併せ申請者が博士（医学）の学位を受ける資格を有すると判定した。